

令和5年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科:(数学)科目:(数学Ⅱ) 対象:(第3学年 A組～ F組)

教科・科目の指導目標	問題解決に必要なとなる基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる。文章の意味を読み取る力や基礎的・基本的な知識・技能を応用・融合して問題を解決する論理的な思考力の育成を行う。
------------	---

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	<p>1 対象である3学年の生徒は1年次に数学Ⅰを3単位、数学Aを2単位履修し、修得している。2年次において、2単位で数学Ⅱを途中まで履修しており、3年次はその続きからとなっている。2年次の数学Ⅱの学習では基本的な知識・技能の定着を目指し授業を展開した。各定期考査においては50～60点前後の平均点をとっており、概ね目標は達成できた。</p> <p>2 今年度に向けて懸念されるのは数学Ⅰの履修から1年間経過していることである。1年次には数学Ⅰの全単元において基本的な知識・技能の定着を目指し、概ね目標を達成してきてはいるが、現時点での数学Ⅰの内容の定着度については生徒の実態を慎重に観察する必要がある。とくに数学Ⅰ履修時に生徒の理解度が低かった三角比の内容については注意を要する。</p>	<p>1 既習内容を含めた基本的な知識・技能の定着 中学校および1・2学年における既習事項のうち、特に基礎・基本的な事項に関しては、授業中に適宜確認するなど、必要に応じて復習を取り入れる。</p> <p>2 応用的な見方・考え方の育成 基礎的な考えを応用することができるように、説明等を工夫し、生徒の疑問・質問を丁寧に取り上げながら授業を展開していく。応用問題は適宜用意し、さらなる理解の進度も図る。</p> <p>3 基本的な学習習慣の確立 定期的に、教科書の問題や問題集・プリントを利用して課題を課すことで、学習習慣を確立していく。</p>	<p>1 既習事項を適宜確認し、応用的な内容に関しては、丁寧な導入による授業展開を行っていく。</p> <p>2 演習学習を通し理解を定着させ、適宜家庭学習課題を課し、学習する習慣の確立を目指し、生徒の基本的な学力、応用力の定着を図る。</p> <p>3 長期休業中には、課題を課し、家庭学習を通し学習内容のさらなる定着を図る。</p> <p>4 定期的に補講等を実施する。</p>

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			